

チャペル週報

No.18

2016.10.10 ~ 10.14

秋季宗教運動特集号

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、
すべての人に仕える者になりなさい。

(マルコによる福音書9章35節)



吉岡記念館とランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

10月10日(月) 神 加 納 和 寛 (神学部准教授)
経 秋季大学キリスト教週間を覚えて 舟 木 讓 (宗教主事)
人 大 石 健 一 (茨木春日丘教会牧師)
理 前 川 裕 (宗教主事)
聖和 聖書物語「どうやって祈るの」

10月11日(火) 神 「震災を覚えて」礼拝③
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 ドイツ国際平和村での活動を通して 川 東 真 歩(社4)
法 大 宮 有 博 (宗教主事)
経 舟 木 讓 (宗教主事)
商 山 本 俊 正 (宗教主事)
国 加 納 和 寛 (神学部准教授)
理 前 川 裕 (宗教主事)
総 NPO法人メインストリーム協会
教 五 百 住 満 (教育学部教授)

10月12日(水) 神 癒し③ 浅 野 淳 博 (神学部教授)
社 一文字シリーズ「言」⑤ 田 淵 結 (院長)
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
経 大学生生活オリエンテーションPart 2 (追加)
商 English Chapel Dr. Curtis Rigsby (Professor, University of Guam)
人 小 西 砂千夫 (人間福祉学部教授)
国 UNYV参加学生報告 佐 竹 優 輝 (国際学部4年)
理 前 川 裕 (宗教主事)
総 パロックアンサンブル
教 高 内 正 子 (教育学部教授)

10月13日(木) 大学合同チャペル「総主題：ランパス日本宣教130周年」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場：中央講堂
「ランパス先生ご一家のお働きと関西学院」 宮 田 満 雄 (元関西学院院長)
神戸三田キャンパス 会場：VI号館101号教室
「W.R.ランパス宣教師の使命とヴィジョン」 神 田 健 次 (神学部教授)
西宮聖和キャンパス 会場：メアリー・イザベラ・ランパスチャペル
「良い知らせを伝える者」 田 淵 結 (関西学院院長)

10月14日(金) 大学合同チャペル「総主題：ランパス日本宣教130周年」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場：中央講堂
「W.R.ランパス宣教師の使命とヴィジョン」 神 田 健 次 (神学部教授)
神戸三田キャンパス 会場：VI号館101号教室
「わたしたちは世界を救えるか？」 中 道 基 夫 (神学部教授)
西宮聖和キャンパス 会場：メアリー・イザベラ・ランパスチャペル
「地の果てに至るまで、証人」 野 田 和 人 (日本基督教団神戸栄光教会牧師)

◇ランパス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランパス記念礼拝堂 (西宮上ヶ原)
10月13日(木) 宗教運動のために 木 村 仁 (宗教活動委員会伝道部長、法学部教授)
10月14日(金) 経済学部のために 田 中 敦 (経済学部長)

ランバス先生ご一家のお働きと関西学院

宮 田 満 雄

今年はランバス先生ご一家が神戸に派遣され宣教活動を開始されて130周年である。神戸以西の瀬戸内海沿岸を活動の地域と定め教会や学校の設立にかかわられた。W.R.ランバス先生が神戸に滞在されたのは4年間にすぎなかったが、その間にご一家は13の教会と4つの学校の創立にかかわられた。

学校について言えば、パルモア学院、神戸婦人伝道学校（ランバス記念伝道女学校）、広島女学院、関西学院である。パルモア学院からは後にパルモア女子英学院が生まれ、啓明女学院への名称変更を経てその後啓明学院となり、現在は関西学院大学の継続校として位置づけられている。ランバス記念伝道女学校は広島女学校保母師範科と合併しランバス女学院となり、更に神戸女子神学校と合併し聖和女子学院となり聖和大学となった。現在は関西学院と合併している。1998年3月にはこれらパルモア学院、啓明女学院、広島女学院、聖和大学、関西学院の間で「ランバス関係姉妹校間協定」が結ばれ相互の親交と連帯を深めることとなった。人知の測り知れぬ導きが加わっているようにさえ感じる。因みにパルモア学院は今年創立130周年を祝うことになっている。

ランバス先生の教育理念は、一言で言えば「知識と敬虔の融合」である。「敬虔」とは「神を信じ敬う」ということである。したがって関西学院創立時の英文憲法（constitution）には、教育の目的として、若者達が「intellectual and religious culture」を身につけることができるようキリスト教主義に基づいて教育するということが明記されている。日本語で言えば「知的宗教的教養の涵養」となる。つまり、人間の教育は知的訓練だけでは不十分で、知性を超えたところの次元、つまり見えない次元に眼を向ける感性を養うことが大切であるということである。精神性、霊性と置きかえてもよいであろう。ベーツ先生は「Mastery for Service」を提唱され関西学院で学ぶ者のとるべき人生態度を奨められたが、その背後には「知識と敬虔の融合」という理念があることを忘れてはならない。それこそ建学の精神である。ランバス先生ご一家のお働きが我々に残された遺産の大きさは測り知れない。そこには「育てられる神」の導きを感じる。

（元関西学院院長 関西学院大学名誉教授）

「地の果てに至るまで、証人」

野 田 和 人

神戸栄光教会は、今年の9月17日に教会創立130年を迎えました。教会は、この130年の歴史を導いてくださった神さまと、その間、福音宣教のために力の限りを尽くして仕えてこられた信仰の先達の方々に感謝し、与えられた恵みを分かち合うための創立130年記念事業の一環として、5月5日に、神戸市の再度公園にある市立外国人墓地にて第二代牧師 J.W.ランバス師記念墓前礼拝を執り行いました。

J.W.ランバス師は、米国南メソジスト監督教会最初の日本宣教師として、1886年、妻のメアリー・マクレラン、長男のW.R.ランバス夫妻と共に神戸に来任。南美以美神戸教会（現神戸栄光教会）を創立し、その初代牧師を務めたのがW.R.ランバス師でした。教会では老ランバス、若ランバスと呼び習わしています。

老ランバス夫妻は1854年から32年間、中国・上海での医療宣教に従事され、1854年に上海で生まれた若ランバスも、妹ノーラ・ケイトの夫W.H.パークと共に蘇州病院を設立し、中国で優れた医療伝道を行っていました。

5月5日当日は、老ランバス師の玄孫にあたるディヴィッド・シェレルツさんが（若ランバス師は彼の曾祖伯父にあたる）、墓前礼拝の初めに「こどもの日」にちなんで、メアリー・マクレランに始まるランバス一家の6世代にわたる女性たちの働き（子どもたちへの教育や養育における活躍）を紹介されました。そのお話を通して、「ランバス日本宣教130周年」の恵みが様々な形であまねく染み渡っていく様子を私たちはあらためて感じることができました。

そしてそれは使徒言行録1：8の昇天前のイエスさまの言葉、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして地の果てに至るまで、わたしの証人となる」－この命令であると同時に約束でもある主イエスの言葉に依り頼んで日本宣教を開始したランバス父子の志が神さまに受け入れられて、この地で実を結んでいることを実感させるものでもありました。シェレルツさんも墓前でそのことを実感されたと思います。

主イエスの言葉に天使の言葉が続きます。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」－主イエスは他ならないこの世界に再び来てくださるという約束です。この約束を信じて、生涯を主の御業のためにささげ尽くされたランバス父子のお働きに心から感謝します。

（神戸栄光教会牧師）

「良い知らせを伝える者」

田 淵 結

1886（明治19）年、今から130年前にアメリカ南メソジスト監督教会は、日本における宣教を、開港地神戸を拠点に西日本を中心に展開すべく活動を開始しました。6月25日、ジェイムズと妻メアリー・イザベラ、さらにデュークス宣教師夫妻の4名が正式に神戸に着任します。少し遅れてランバスの息子ウォルターも家族とともに合流し、本格的活動が開始されました。その3年後に関西学院が現在の神戸市立王子動物園の場所に開設されます。このように明治期前半からいくつものキリスト教学校が創立されるのですが、特に注目したいのはそこでの女性宣教師の活躍です。

お隣神戸女学院の創立者タルカット、ダッドレー（この方の名前が聖和4号館のチャペルにつけられています）。青山学院のスタンメーカー、宮城学院のブルボー、金城学院のランドルフ、広島女学院のゲーンズなど、他にも多くの人たちが知られています。関西学院創立者ウォルター・ランバスの母メアリーも聖和に連なる学校の設立にかかわりました。

21世紀は女性が活躍する時代と言われるようですが、19世紀末の日本社会のキリスト教伝道においてすでに、女性宣教師が活発に伝道や教育にかかわっていたのです。そこにアメリカにおける19世紀、女性のあり方が反映されていました。「世俗社会で金儲けに忙しい男性たちにかわり、女性がその教会との強固な結びつきによって、家父長の宗教的役割を担うのが特徴であった。母親は敬虔なクリスチャンとして思いやり深く、温和で、道徳的に優れ、自己を犠牲にして他人のために尽くす」。資本主義的経済生活に巻き込まれる男性とは異なった女性の独自の役割を積極的に担い、「善・博愛・道徳的社会活動への進出」を実践していったのです（小檜山ルイ、『アメリカ婦人宣教師』）。その彼女たちの働きも19世紀的な時代の制約のなかにあったとしても、そのような思いをキリスト教伝道という形で日本にまでもたらした女性宣教師たちの働き、それがミッションスクールという学校を日本に根づかせ、今も私たちは、彼女たちの働きの豊かさのなかで学び続けています。

（関西学院院長・教育学部教授）

W.R.ランバス宣教師の使命とヴィジョン

神 田 健 次

今年は、学院の創立者W.R.ランバス宣教師が、来日して130周年の記念の年を迎えています。

1886年、ランバス・ファミリーは中国から船で神戸に到着し、日本における宣教活動が着手されました。これは、米国南メソヂスト監督教会の決議にもとづくものではありますが、実はランバス宣教師の来神に際しては、二つの困難な状況を抱えていたと思われる。一つは、それまでの長年にわたる中国での宣教活動を、幾分不本意な私たちで終結せざるを得なかったという、内面的な困難さを抱えていたことです。もう一つの困難さは、明治の開港とともに、神戸は横浜などと並んですでに多くの欧米の宣教協会が、それぞれの宣教活動を展開しており、教会や学校なども立ち並び、その意味で「出遅れた出発」であったことと言えます。それにも拘わらず、わずか4年ほどの滞在期間の間に、神戸栄光教会や関西学院など、瀬戸内海沿岸に数多くの教会や学校などを設立することが可能となった秘密は、いったいどこにあったのでしょうか？二重の困難さに直面して、ランバス宣教師は、いかなる心構えで、どのようなヴィジョンを構想したのか、ともに考えてみましょう。

今年の3月に、学院創立125周年の記念出版の一環として、ランバス宣教師の主著の一つ『医療宣教：二重の任務』（原文は1920年刊行）を監修する機会がありました。この著書を通して、あらためてランバス宣教師の使命が、学校や教会を設立する働きのみならず、中国やアフリカのコンゴでは、むしろ医療による働き、病院の設立などにも、多大な貢献をされた働きにあったことがよく理解できます。今日、「癒しの働き」（healing ministry）という重要なコンセプトがありますが、そのルーツには、病めるもの、苦しむものに仕えるランバス宣教師と世界的なネットワークによる医療宣教の献身的な貢献があったことについて、その今日的な意義とともに考えたいと思います。

（神学部教授）

わたしたちは世界を救えるか？

中道基夫

世界には、様々な問題が満ちています。その問題に多くの人が苦しんでいます。

そのような問題は解決できると思いますか。それとも、そんなことは無理だと考えるでしょうか。そして、自分がその問題を解決しなければならない、もしくはその解決の一端を担いたい、その責任があると考えているでしょうか。それとも、そんなことは関係のないことなのではないでしょうか。

今から、130年前、関西学院の創設者W.R.ランバス宣教師が、日本にやってきた時は、単純に宗教を広めたい、キリスト教徒を1人でも増やしたいと思っていたわけではありません。おそらく、ランバス宣教師だけではなく、19世紀の終わり、多くの欧米の宣教師は「世界を救う」という意識で、海外に出かけていきました。また、欧米の多くのキリスト者が宣教師の活動を支えるために献金しました。世界宣教に遣われたお金は、莫大なものになるのではないのでしょうか。

教会を建て、学校を設立し、医療や福祉活動を行い、その土地の様々な問題を解決し、人類に幸福をもたらそうとしたのです。また、そうできるという確信をもっていました。そのおかげで、今わたしたちはこの美しいキャンパスをもつ関西学院で学ぶことができます。その働きは尊いものです。

しかし、世界は、過去100年の間にその「幸福」が必ずしも絶対的な幸福ではないことも経験したのです。むしろ、その「幸福」が人々に不幸をもたらせる結果にもなりました。

多様な価値観、生活様式、文化がある中で、必ずしもわたしたちが考える幸福が、他の人々の幸福にはならないことにも気がつきました。

じゃあ、わたしたちは手をこまねいて、とりあえずは自分たちだけの幸福を求めて、後はそれぞれが自己責任でやってもらうしかないのでしょうか。

おそらく、わたしたちは世界を救えないでしょう。その救いのイメージも明確ではありません。しかし、ランバス宣教師を動かした力を知る時、そしてそれを得る時、わたしたちは現代に相應しいその力の新しい発揮の仕方を見つけることができるのではないのでしょうか。その発見にこそ、ランバス宣教師が設立された関西学院大学で学ぶ意味があります。

(神学部教授)

●チャペルオルガニスト募集(対象:理工学部生、総合政策学部生)

関西学院では毎年チャペルオルガニストを募集しており、秋学期は10月22日(土)にオーディションを行います。採用されますと個人レッスン(有料)を受けることができ、チャペルの奏樂をはじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して、教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身につけることができます。

募集要項・応募用紙の入手先

・ホームページ

関西学院大学ホームページからダウンロードできます。

学生オルガニスト 検索



QRコードリーダー対応の携帯電話をお使いの方は、左記のQRコードからアクセスしてください。

・電子メール

organist@kwansei.ac.jpにあなたのキャンパス名を書いたメールを送信してください。返信で送ります(添付ファイルが受信可能なメールアドレスからお送りください)。

・事務室

宗教センター(吉岡記念館1階)、神戸三田キャンパス事務室(アカデミックコモンズ1階)に置いています。

応募期間: 9月20日(火)~10月20日(木)の事務室開室時間

お問い合わせ・資料請求: 宗教センター オルガニスト募集担当

電話: 0798-54-6018 E-mail: organist@kwansei.ac.jp

●聖アウグスティン教会合唱団コンサート

関西学院は宗教改革500年記念として下記演奏会を開催いたします。ご来場をお待ちしております。

関西学院 宗教改革500年(1517-2017)記念「聖アウグスティン教会合唱団コンサート」

とき: 10月11日(火) 17:30開場 18:00開演

ところ: 関西学院中央講堂〈入場無料〉

主催: 関西学院

共催: 大阪日独協会

後援: ドイツ連邦共和国総領事館

●オルガン音楽の泉 2016 Fall Semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第14回 10月18日(火) 能島 亜未(本学オルガン講師)

第15回 11月15日(火) 北村 あゆ美(ドイツ・ハンブルグ在住、Ev.Hoisbüttel Gemeindeオルガニスト)

第16回 11月25日(金) 坂倉 朗子(本学オルガン講師)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

ところ: 関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主催: 宗教センター

●ランパスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。秋学期の予定は以下のとおりです。

10月17日(月)「演じるチャペル」

11月21日(月)

ランパス記念礼拝堂(上ヶ原)10:35~11:05

*ランパスチャペルアワー委員会は、共にチャペルをつくる学生を募集しています。

興味のある方は、吉岡記念館事務室・宗教センターに声をおかけください。

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書が必要)であればどなたでも利用できます。希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室ははじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので、皆様の温かいご協力をお願いいたします。